



港報



七里長浜港だより

1999.March

創刊号

環日本海の拠点として新たな歴史を刻もうとしている。



七里長浜港初入港「七里長浜港供用開始1周年記念クルーズ」
1998年9月14日～15日 ふじ丸(23,340トン)



心地好い潮風とともに朝日が差し込む9月14日午前8時35分、天候晴れ。出迎え関係者らの高ぶる緊張の中、七里長浜港沖に、今までに見たことのない純白で巨大な船体が姿を見せた。多くの旅人らの夢を乗せ、世界の航海を続けている、あの日本最大級を誇る豪華客船『ふじ丸』が、いま精一杯両手を広げたこの七里長浜港へ初入港しようとしている。待ちに待った、正に感動の一瞬である。

七里長浜港利用促進協議会



「創刊に寄せて」 七里長浜港利用促進協議会 会長 青森県知事 木村守男

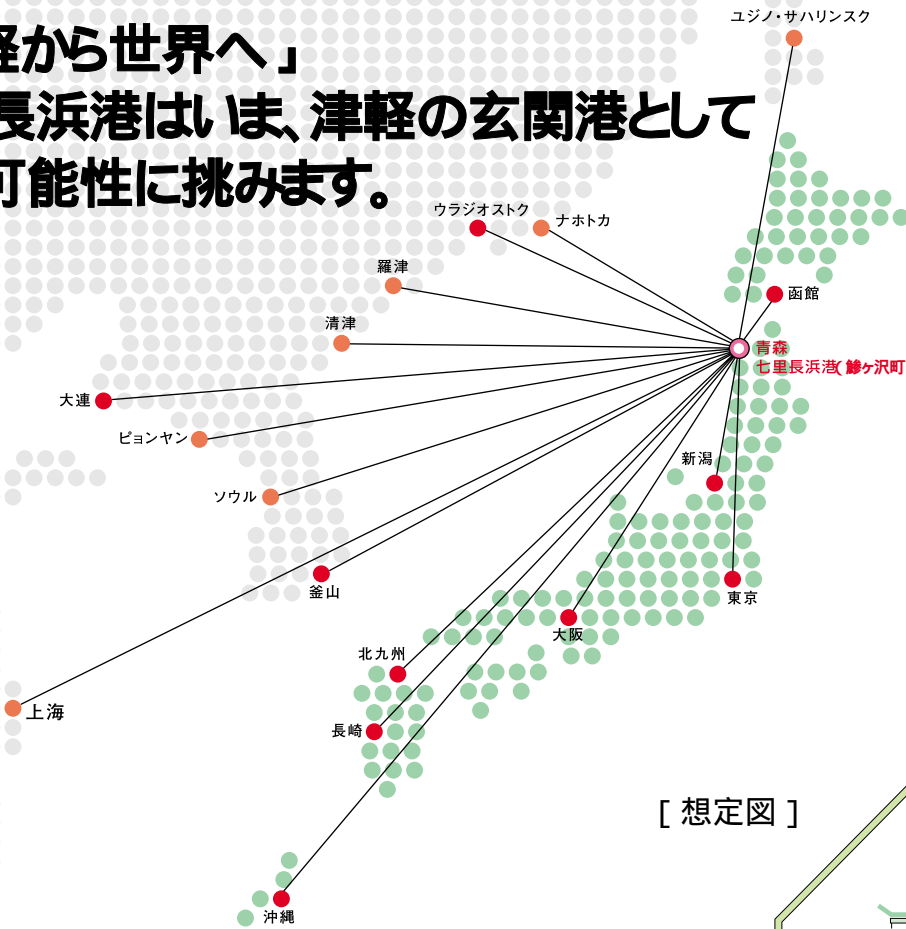
皆様には、常日頃から七里長浜港の利用促進にお力添えをいただいていることにつきまして、深く感謝申し上げます。

七里長浜港は、平成9年の一部供用開始以来、津軽地域における物資の流通にとどまらず、文化観光立県宣言以降は、世界遺産・白神山地を目指した大型客船が相次いで入港するなど、確かな歩みを続けています。

当協議会としても、七里長浜港が、津軽地域の物流拠点として、また文化観光立県の推進のため、さらには環日本海時代の本県の玄関口として、より一層の利用促進に努めて参りたいと考えています。

皆様の更なるご支援・ご協力をお願い申し上げます。機関紙「港報」創刊にあたってのごあいさつとします。

「津軽から世界へ」 七里長浜港はいま、津軽の玄関港として その可能性に挑みます。



歴史的背景

七里長浜港がある鯉ヶ沢町は、鎌倉時代に安東水軍が十三湊とともに活動の拠点とし、藩政時代には津軽御用港として、また北前船(千石船)の寄港地として繁栄を極めたところでした。

しかし、陸上交通の発展に伴い、大正期には漁港として転身を図り、以来漁業基盤の整備に努め、現在では日本海における県内最大の漁港となりました。そこから約4Km北方にある七里長浜港は、今後も津軽の玄関港として、また、環日本海の拠点として発展することに多くの期待が寄せられています。

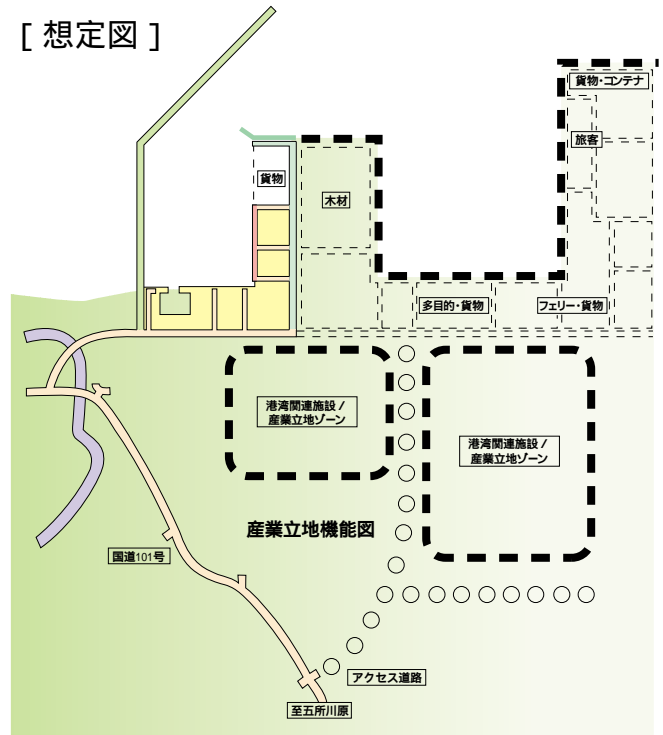


位置と現状

青森県の日本海側、津軽半島の付け根にあたる鯉ヶ沢町鳴沢地区に位置し、直線距離にしてロシア・ウラジオストクと約700Km、韓国・釜山と約1,000Km、中国・大連とは約1,500Kmの距離にあります。特にロシアとは、本州では最も近い港湾施設であることから、今後は環日本海の拠点として、今まで以上の国際(技術)交流が図られ、たくさんの人的・経済的交流や物流の機会が考えられます。

また青森市までは、56Km、弘前市までは43Km、五所川原市までは22Kmの位置にあり、それらの都市へのアクセス道路の整備も進めています。現在までの港湾施設の利用状況は右表のとおりで、主に建築資材となる原料が中心ですが、平成9年7月にはロシア船籍の外航客船が初入港、また平成10年9月には日本最大級の豪華客船「ふじ丸」・「にっぽん丸」が合計3回入港するなど、物流だけでなく世界遺産・白神山地などの観光誘致に向けた人々の交流拠点としてその機能を拡充しつつあります。

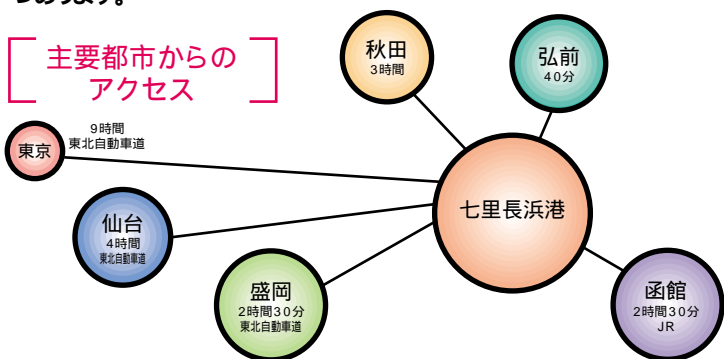
[想定図]



施設概要

5千トン級岸壁、2千トン級岸壁各1バース及び埠頭を有し、移出入品目の拡大に対応するべく平成11年度には公共上屋の建設が予定されています。さらに大型貨物船入港に備え、大型岸壁機能の建設も想定。また将来的には、超大型客船やフェリーなどに対応した複合型岸壁を整備するなど、港湾施設機能の更なる進展が想定されています。

主要都市からのアクセス



七里長浜港のあゆみ

S52	第四次青森県長期総合計画(青森県)
S54	津軽地方生活圏定住基盤総合整備計画(青森県) 津軽新港調査検討委員会設置 青森県鯉ヶ沢港湾計画策定(鯉ヶ沢町)
S56	津軽地域開発基本計画構想(青森県)
S57	津軽新港(仮称)の位置決定 津軽新港(仮称)の性格付けがなされる 津軽新港(仮称)の正式名称が七里長浜港に決定される 七里長浜港港湾整備計画策定(青森県)
S58	七里長浜港起工式
S59	七里長浜港建設促進期成同盟会設立
S61	第五次青森県長期総合計画(青森県)
S62	漁業補償に関する協定締結(青森県、鯉ヶ沢漁協)
H3	七里長浜港土地利用計画調査(青森県、鯉ヶ沢町)
H6	産業拠点形成可能性調査「七里長浜港総合開発関連計画」 (三菱総合研究所・青森県委託) 七里長浜港北防波堤締結記念式典・祝賀会
H7	津軽半島振興計画(青森県) 七里長浜港長期計画調査(青森県)
H8	七里長浜港産業立地条件調査(青森県) 七里長浜港利用促進協議会設立 5,000トン級岸壁及び埠頭完成
H9	新津軽地域開発基本構想 新青森県長期総合プラン 2,000トン級岸壁1(1/ス)及び埠頭完成 七里長浜港公共埠頭完成式典 内航第一入港「富栄丸」698トン 外航第一入港「オリガザドスカヤ号」ロシア船籍 4,258トン 七里長浜港利用促進庁内連絡会議設置(青森県) 七里長浜港利用促進調査(青森県)
H10	七里長浜港利用促進担当組織の設置 七里長浜港利用促進調査(青森県) 日本海内航定期航路調査(青森県) 日本最大級旅客船「ふじ丸」初入港 [商船三井客船所有・23,330トン・定員 600人] 日本最大級旅客船「にっぽん丸」初入港 [商船三井客船所有・21,903トン・定員 600人] 日本最大級旅客船「にっぽん丸」入港 [商船三井客船所有・21,903トン・定員 600人]

平成10年度七里長浜港利用実績

入港隻数(月別)

船種	H9年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
貨物船	34	2	2	15	4	6	7	2	4		3	1	1	47
客船	1						3							3
自衛艦	2				1									1
調査船	2				1									1
計	39	2	2	15	6	6	10	2	4	0	3	1	1	52

(単位:隻)

取扱数量(月別)

品目	H9年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
石灰石	30,300													0
砕砂	6,800		1,500			1,700			3,100		6,300	1,400		14,000
砕石	22,400	2,200		4,400	7,000	1,500	5,500	4,200	3,000					27,800
割石				6,006		1,900	2,398							10,304
コンクリートブロック	1,409	1,409	1,409											2,818
鋼材						824							400	1,224
旅客	129						1,236							1,236
計(トン)	60,909	3,609	2,909	10,406	7,000	5,924	7,898	4,200	6,100	0	6,300	1,400	400	56,146
計(人)	129						1,236							1,236

(単位:トン)

入港トン数(月別)

船種	H9年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
貨物船	18,875	1,687	1,687	6,109	2,380	3,228	3,386	1,435	2,245		4,071	611	1,559	28,398
客船	4,258						67,146							67,146
自衛艦	1,930				1,550									1,550
調査船	383.06				526									526
計	25,446.06	1,687	1,687	6,109	4,456	3,228	70,532	1,435	2,245	0	4,071	611	1,559	97,620

(単位:トン)

荷揚げ関係者(骨材等)

日扇船務(株)(株)福島組(株)コーキ、北海道海運(株)(株)丸屋組、日本通運(株)(株)佐藤組(株)河南

仕出港-姫川(新潟県) 函館、江差、上磯、室蘭(北海道)、鹿角(茨城)、金沢(石川)

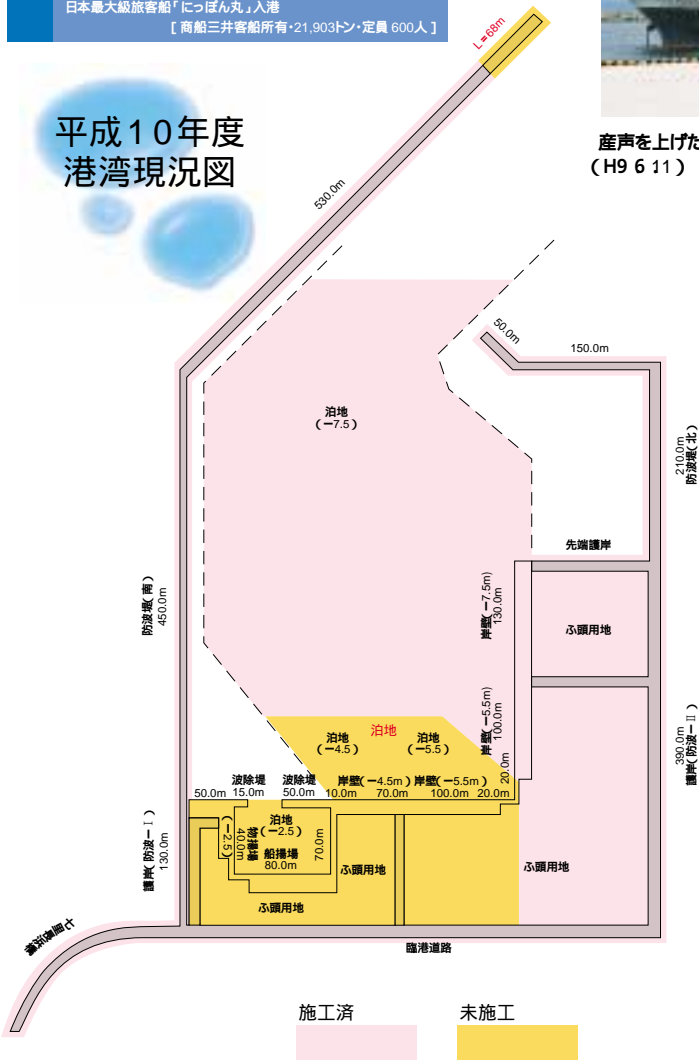
仕向港-函館、江差、尻屋、瀬根、銅路(北海道)、姫川(新潟県)、青森、馬山(韓国)



産声を上げた七里長浜港に待望の第1船入港
(H9 6 11)



平成10年度港湾現況図



入港を果たした第1船は、兵庫県津名郡淡路町の中島海運所有の貨物船「富栄丸」(阿部健三船長、6人乗り組み、698トン)。同船は新造船で処女航海。荷主の日本セメント(株)仙台支店の依頼で、新潟県糸魚川産の石灰石(生コン用骨材) 2,200トンを同県姫川港で積み、七里長浜港に初荷揚げとなりました。

七里長浜港第一期計画の概要

外郭施設

名称	数量	備考
防波堤(南)	980m	
防波堤(北)	410m	
護岸(防波-I)	130m	
護岸(防波-II)	390m	
防波堤(波除)	65m	

水域施設

名称	数量	備考
泊地(-7.5m)	150,000m ²	
泊地(-5.5m)	9,000m ²	
泊地(-4.5m)	2,000m ²	
泊地(-2.5m)	9,000m ²	

けい留施設

名称	数量	備考
岸壁(-7.5m)	130m(1/ス)	5000D/W級
岸壁(-5.5m)	200m(2/ス)	2000D/W級
岸壁(-4.5m)	70m(1/ス)	700D/W級
物揚場	40m	
船揚場	80m	

道路施設

名称	数量	備考
道路(W=6.5m)	2,020m	
橋梁	1基	

D/W:船舶の重量トン数で、満載排水量から軽荷重量を除いたものをいう。したがって、その船に積載しうる貨物、燃料、水、油その他積載物の重量(載貨重量)を表わすものである。

「ふじ丸」日本海・津軽海峡体験クルーズ

9月14・15日の1泊2日の行程で、豪華客船「ふじ丸」による日本海・津軽海峡体験クルーズを実施しました。七里長浜港供用開始一周年を記念し、鯉ヶ沢町民のほか、当協議会並びにKASOヤングサミット関係者及びフラワー観光からの参加者など総勢392名を乗せ、家族や知人に見守られながら14日午後3時、七里長浜港を出港しました。

船上では「七里長浜港洋上ポートセミナーinふじ丸」(当協議会主催)も開催され、渡辺船長の体験談を交えた基調講演の後、七里長浜港のより一層の利用促進について協議されました。参加者の中にはクルーズが初めてという方もいましたが、吹き抜ける潮風と紺碧の海原を縫うように走る「ふじ丸」に、普段とは違う優雅な時間を満喫していました。



ロシア極東地域(ウラジオストク市等)との交流

地元鯉ヶ沢町では七里長浜港が『将来における対岸との経済交流の拠点』として位置付けられたことに伴い、ロシア極東地域との経済・文化など多方面にわたる交流を行なっています。

ウラジオストク市の東洋語学校と町中学生との相互訪問交流、また平成3年度から7年度までの4年間、同市よりロシア語講師を招き、町民等への語学講座を開設するなど、ロシアの生活・文化等について広く見聞することができました。

さらに平成9年7月には、七里長浜港公共埠頭完成記念事業の一環として、ロシア客船をチャーターした「日本海クルーズ&極東ロシアの旅」(参加者136名)が実施されるなど、今後も引き続き、港湾を利用した人的・経済的交流の場を創造していきたいと考えているところです。



青森海上保安部巡視船「おいらせ」体験航海

7月19・20日の2日間にわたり「海の日」を祝い、青森海上保安部巡視船「おいらせ」(526.59トン)による体験航海が七里長浜港で行なわれました。

晴天の下、19日のセレモニーでは、地元鯉ヶ沢町の蒼海海鳴り太鼓保存会による太鼓演奏が披露されるなど、関係者のほか多くの乗船参加者とともに、巡視船「おいらせ」の入港を歓迎いたしました。

津軽半島を往復する約1時間半のコースでしたが、巡視船に乗船できるめったにないチャンスということで、2日間で延べ350名が乗船。天候にも恵まれた七里長浜港は、多くの家族連れなどで賑わいました。



「にっぽん丸」秋の日本一周クルーズ・大自然紀行クルーズ

秋の日本一周クルーズ(東京⇨神戸⇨香岐⇨金沢⇨鯉ヶ沢⇨室蘭⇨東京)

日本の文化と大自然の「世界遺産」をめぐる船旅で、9月17日に豪華客船「にっぽん丸」が、乗客乗務員471名を乗せ、日本一周クルーズの寄港地である七里長浜港に初入港しました。

盛大な歓迎セレモニーが行われた後、クルーズの参加者たちは、埠頭に設けられた『青森・津軽市町村観光物産展』(当協議会主催)へ足を運び、特産品であるリンゴやメロンなどの試食をしたり、お土産を買い、親戚や知人に宅配するなど、津軽の味と伝統を満喫していました。また、3コースのオプションツアー参加者は、世界遺産・白神山地コースなどを通じ、津軽の初秋を堪能しました。



大自然紀行クルーズ(東京⇨釧路⇨鯉ヶ沢⇨東京)

豊かな生態系を育む[釧路湿原]と世界自然遺産[白神山地]をめぐる船旅で、9月25日に「にっぽん丸」が、乗客乗務員325名を乗せ、2度目の寄港をしました。17日に寄港した前回同様、歓迎セレモニーや『青森・津軽市町村観光物産展』(協議会主催)を開催するなど、埠頭はクルーズ参加者のほか、一目豪華客船を見ようと駆け付けた地元見学者などで賑わいました。また、世界遺産・白神山地の自然を体感できる「ミニ白神」オプションツアーへの希望者が多く、参加者の白神山地への関心の高さを感じました。



日本沿岸域学会第11回シンポジウム

9月2・3の2日間「日本沿岸域学会第11回シンポジウム」が東北地方では初めて鯉ヶ沢町の日本海拠点館で開催されました。このシンポジウムは、学会、官界、産業界などの様々な分野の方々に参加いただき、日本の沿岸域における自然環境の活用法を多方面からとらえ、地域活性化、地域づくり、地域交流などに活用する方法を研究討論する場として全国主要都市で開催されています。

約450名が参加した今回のシンポジウム1日目は、「豊かな自然を活かした魅力ある沿岸域の形成」と題し、県内外から多彩なパネリストを迎え討議しました。

また、青森大学社会学部教授でエッセイストでもある見城美枝子さんを招き、「豊かな自然や文化とのふれあい」と題した特別講演を開催しました。

2日目の見学会では、世界遺産・白神山地が体感できる「ミニ白神」に足を運ばれるなど、これからの日本の沿岸域を考える上で大変意義のあるものとなりました。



七里長浜港利用促進協議会幹事による「秋田港・能代港」視察研修

11月25・26日の2日間、当協議会幹事、事務局等14名が「秋田港・能代港」を視察研修しました。両港とも七里長浜港にとっては最も近くにある重要港湾であり、同じ日本海沿岸の港湾施設として学ぶべきところが多く、今後積極的に連携を図りたいと考えている港湾です。

一行は25日には能代港、能代火力発電所を、26日には秋田港、港湾文化交流施設であるポートタワー「セリオン」、秋田マリーナを視察しました。この視察研修では、今後の七里長浜港における港湾整備の方向性、また利用促進を図る上での必要な組織体制など、多くの収穫を得ることができました。



七里長浜港利用促進協議会の概要

本協議会は七里長浜港のより一層の利用促進を図り、同港の振興と発展、そして津軽地域の産業振興に寄与することを目的に、平成8年5月に設立されました。

現在、青森県、津軽28市町村、民間団体など48団体で構成され、主に船舶や貨物等の誘致活動、ポートセールスを中心に、航路開設及び定期化に向けた各種事業に取り組んでいます。

昨年5月に行われた総会では、全ての議案について承認、可決され、また任期満了に伴い役員改選が行われましたが、旧役員が満場一致で再任されました。議案内容と新役員(任期:2年)は次のとおりです。

七里長浜港利用促進協議会役員名簿 (平成11年2月現在)

役職名	団体名	職名	氏名	備考
会長	青森県	知事	木村守男	
副会長	鯉ヶ沢町	町長	齋藤禮次郎	
"	弘前市	市長	金澤隆	
"	黒石市	市長	鳴海広道	
"	五所川原市	市長	成田守	
"	木造町	町長	盛買	
理事	岩崎村	村長	小山真人	
"	尾上町	町長	成田武憲	
"	小泊村	村長	加藤久宜	
"	岩木町	町長	小寺勇	
"	青森県	企画部長	葛西勝尚	
"	"	土木部長	奈良豊規	
"	弘前商工会議所	会頭	新戸部満男	
"	鯉ヶ沢町商工会	会長	杉澤慶祐	
"	木造町商工会	会長	野呂充志	
"	(株)青森銀行	代表取締役頭取	井畑明男	
"	(株)みちのく銀行	代表取締役頭取	増田孝介	
"	(社)青森県トラック協会	会長	小川正弘	
"	(社)青森県建設業協会	会長	中野渡保雄	
"	日本通運(株)青森支店	支店長	角宏一郎	
"	丸共運輸(株)	代表取締役社長	鈴木一平	
"	青森通運(株)	代表取締役社長	倉内信夫	
監事	深浦町	町長	平沢敬義	
"	森田村	村長	佐藤昭三	

平成10年度七里長浜港利用促進協議会議事内容

- 議案第一号 平成9年度事業報告について
- 議案第二号 平成9年度収支決算について
平成9年度会計監査報告
- 議案第三号 平成10年度事業計画(案)について
- 議案第四号 平成10年度収支予算(案)について
- 議案第五号 会則の改正について
- 議案第六号 役員の変更について

報告

報告第一号 幹事長及び幹事の指名について

平成10年度七里長浜港利用促進関連事業報告

月	事業名(場所/日)
5	七里長浜港建設促進期成同盟会役員会・総会(鯉ヶ沢町/8日) 七里長浜港利用促進協議会役員会・総会(鯉ヶ沢町/8日) 青森県七里長浜港利用促進庁内連絡会議現地検討会(鯉ヶ沢町/18日)
7	北海道港湾調査(十勝港・留萌港・岩内港/7~10日) 青森海上保安部巡視船「おいらせ」体験航海(七里長浜港/19・20日) 七里長浜港利用促進協議会第一回幹事会(鯉ヶ沢町/29日)
8	七里長浜港PRビデオ制作開始 舞鶴港(京都府)・直江津港(新潟県)港湾調査(24~26日)
9	日本沿岸域学会第11回シンポジウム(鯉ヶ沢町/2・3日) 商船三井客船所有豪華客船「ふじ丸」入港(七里長浜港/14日) 七里長浜港洋上ポートセミナー(ふじ丸/14日) 商船三井客船所有豪華客船「にっぽん丸」入港(七里長浜港/17・25日:2回) 青森・津軽市町村観光物産展開催(七里長浜港/17・25日:2回)
10	日本海内航定期航路調査第一回検討会議(鯉ヶ沢町/22・23日) 七里長浜港上屋建設検討作業部会(県庁/26日)
11	七里長浜港利用促進協議会幹事視察研修会(秋田港・能代港/25・26日)
12	日本海内航定期航路調査第二回検討会議(東京都/3日)
H11 2	七里長浜港利用促進調査円卓会議(青森市/4日・弘前市/5日) 日本海内航定期航路調査第三回検討会議(青森市/23日)
3	七里長浜港利用促進協議会第二回幹事会(鯉ヶ沢町/18日) 七里長浜港の利用を考える意見交換会(鯉ヶ沢町/18日)

現在進行中の調査について

七里長浜港利用促進調査(県)

県内及び北東北地域の一般製造業・食品加工業を対象とした個別の企業への面談や先進事例の状況視察等を通じ、貨物流動の実態や七里長浜港利用の可能性を調査

日本海内航定期航路調査(県)

日本海における内航定期航路実現に向け、将来的な可能性を模索

七里長浜港後背地道路調査(町)

港湾機能の拡充に向けた後背地のアクセス道路整備及びその周辺における土地活用についての基礎調査



七里長浜港利用促進協議会

お問い合わせ

〒030 8570 青森県青森市長島一丁目一番一号
青森県企画部地域振興課七里長浜港利用促進担当
TEL 0177 34 9148 FAX 0177 34 8034

港湾施設使用に関するお問い合わせ

〒038 2761 青森県鯉ヶ沢町舞戸町鳴戸384-37 鯉ヶ沢土木事務所建設第二課
TEL 0173 72 3135 FAX 0173 72 3114

事務局

〒038 2792 青森県鯉ヶ沢町本町209 2
鯉ヶ沢町企画財政課港湾対策室
TEL 0173 72 2111 FAX 0173 72 2374

編集後記



春の足音も聞こえるようになりました。七里長浜港にとって、今年度はとても素晴らしい年であったように思いますが、いかがでしょうか?

また様々な場面で、多くの方々に支えられた年でもありました。このスペースをお借りして、心からお礼申し上げます。

さてこの度、皆様のご支援により待望の七里長浜港より『港報』を創刊することができました。ご覧のとおり、協議会の活動報告並びに情報提供など、会員相互の伝達や親睦を図る機関紙として、また協議会の活動記録紙として関係機関等に広く紹介するために、この『港報』を活用していきたいと考えています。

今年度はこの創刊号のみとなりますが、次年度からは年2回を予定しております。皆様からの情報なども掲載したいと考えていますので、遠慮なく左記事務局までご連絡ください。お待ちしております。